

●教員紹介	2～4
●会員だより	4～5
●こぼれ話、進路状況	6
●ゼミ通信、会計報告	7
●役員紹介	8

平成25年度 森の会 総会・懇親会開催!

- 日 時 平成25年**11月9日（土）** 12:00～14:30（受付11:30～）
- 場 所 じゅうろくプラザ 1F
レストラン「ラ・ローゼ・プロヴァンス」
岐阜市橋本町1丁目10番地11
JR岐阜駅隣接（徒歩約2分）
- 会 費 2,000円（在学生は1,000円）当日受付にてお支払い下さい。
※会費は2,000円（在学生は1,000円）ですが、実際の飲食代金はお一人4,500円です。いただく会費との差額は森の会が負担いたします。

同封のはがき、またはメールにて出欠をお知らせください。

ご出席・ご欠席に関わらず、同封のはがき（切手不要）に必要事項をご記入の上、ご返信下さい。
なお、Eメールにてご連絡いただいても結構です。
今回残念ながらご欠席の方も、是非とも皆様への近況報告をお寄せ下さい。

申込み締切 9月18日(水)

今年もJR岐阜駅前で開催! 託児施設利用できます!

昨年は同窓生・職員を合わせて40名を越す参加があり大変盛り上がりしました。今年も沢山の方のご出席をお待ちしております。皆さまお誘い合わせの上で参加下さい。

昨年の同窓会の詳細は6ページ「平成24年度森の会同窓会を振り返って」をご覧ください。

締め切りを過ぎてからでも、ご出席いただけることになったり、託児のご希望がある場合には、森の会事務局までお気軽にご連絡下さい。



昨年の様子



森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内
TEL:058-293-3025 E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp
事務局業務日(月・水・金 9:00～15:00)

教員紹介

「過去を忘れた男の話」 地域文化講座 ● 津田雅夫教授



地域科学部同窓会報「森の会ニュース」に何か書いてほしいという依頼があり、気軽に引き受けたまではよかったのであるが、さて締め切りが迫ってくると、はたと困ってしまった。いざ書こうとすると、ふさわしい話題がなにも思い出せないからである。

地域科学部創立以来、ずっと在職し、来年2014年3月末には退職予定の立場である。それが話題の一つもないということでは、それこそ話しにならないではないか。どういう教員生活をしてきたのか厳しく問い詰められても当然である。

本人もすこし深刻になって、その原因を考えてみた。頭の働きがスローになったことは確かである。忘れものをよくする。しかし過去の記憶を完全に忘却してしまったわけではない（それはそれで良いのだが・・・）。しかし覚えているのは、ほとんど詰まらない話ばかりである。そんなことを書くと、罵詈雑言と軽蔑の眼が嵐のように注がれるだけである。それだけは何としても避けたい。

どうすれば、この窮地から脱することができるのか。そこで忘却の原因について、あれこれと考えてみた。ふつう不愉快な出来事を人は忘れようと試みる。それでは地域科学部での日々が、無意識の抑圧を呼び起こすほどに嫌悪と不快にみちた暮らしであったのか。反対である。配慮に満ちた同僚や職員の方々がおられた。たくさんの学生やセミナー生との楽しい日々があった。

発想を変えよう。気持ちよく忘れるということは、とても素晴らしいことではないか。くよくよと思い煩うことがないということは、じつに幸いなことである。「脳天気」という言葉もあ

るではないか。軽薄で向こう見ず、物事を深く考えない。よい言葉である。私の場合、この後者に属するのではないのか。地域科学部の日々を気持ちよく過ごしてきた結果、何も思い出せないのであろう。

それでも何か一つくらいは思い出せという声もあるだろう。あった。現在の同窓会長の浅井彰子さんは、私の副セミナーのメンバーであった。あるとき、セミナーで美味しいケーキ屋さんに行こうということになった。そのとき、彼女がじつに美味しそうにパクついている光景をありありと思い出した。以来、食べ放題の美味しいケーキさんに通うことが、津田セミナーの良き習慣になった。いつも元気な浅井さんに感謝している。

これも食べ物の話し。セミナーでは春・秋の季節の好い頃を見計らって、「日本文化研究のためのフィールドワーク」と称して行楽している。リトルワールドにも何回か出かけたが、あそこのアイスクリームはいつも美味しかったなあ！ 如庵(犬山・国宝)の抹茶に付く和菓子も季節ごとに工夫されていて良かった・・・。食べ物の話しならば、まだまだ続けられそうだけど、これだけにしておこう。

それでは、食べ物以外に話題は何もないのか。ない。みんなと美味しく食べられる集まりであることだけで、まさに充分だ。美味しく楽しんで食べれば、頭も活性化する。それは勉学と明日の元気につながる。衣食足りて礼節を知る。元気（意味深い言葉だ！）があれば、仕事も勉強もできます。Festina Lente（ゆっくりと急げ）



「当たり前のこと」の意味を考えてみては」

地域環境講座 ● 和佐田裕昭教授

私の研究はもちろん化学に関するものですが、地域科学部では化学実験など化学系科目だけでなく、数学系科目の線形代数も担当しています。今日は専門の化学ではなく、授業担当科目として、そして化学研究の道具として関わってきた線形代数から述べてみたいと思います。

線形代数とはどのようなものかと問われたら、私の専門分野での応用から、連立方程式の理論に関するものと答えるでしょう。中学校以来、連立方程式にはたびたび出会ってきました。これを大学でより一般的な立場から考えて、化学などの応用に役立てようというのが、私が最初に思いつく答えです。

しかし、最近重要視しようと思い始めたことは、大目標、中目標、小目標をはっきりさせた回答です。例えば、連立方程式を化学反応の解析に利用することなどは大目標のひとつといえます。さらにこのために連立方程式の扱い方を理解することなどは中目標のひとつといえます。それならば、小目標、すなわち、この今行っている授業自体の目標は何でしょうか。ここで

悩んでしまいます。あまりにも当たり前の事柄のようで、実のところ考え切ってはいなかったようです。数年来、研究室で時々考えてみたり、学会などで研究発表を聞いているときにふと思いついたりしてきました。昨年に至って、パロアルトの公園のベンチに座しているとき、ヒントを得た気がしています。詳細は今後の授業の中で述べたいと思います。

それぞれの場で活躍されている皆さんも、ご自身の現場で、私のように感じられたことはないでしょうか。「何のためにこれがあるのか」と。大目標にあたるものは案外容易に指し示せるでしょう。目標自体が大きいので、精密な当てでなくても当てはまった気になれるからです。しかし、次第に的を絞り込んでゆくとき精密なふり分けが要求され、答えを得るのが難しくなるようです。身近なところでこういった考察を試みるのも興味深いものと思いますよ。

種々真剣な考察へとつながった地域科学部の受講学生の皆さんとの交流に感謝しています。

[地域に足を運び社会福祉を解剖する]

地域構造講座 ● ^{たかぎ かずみ}高木和美教授



こんにちは。お元気ですか？

2002年4月に地域科学部に在籍するようになって、11年余りたちます。20代は福井県美浜町の社会福祉協議会で働いていました。仕事を辞めて修士課程へ進み若狭地域の原発で働く地元労働者の労働と生活の実態を調査しました。その調査で、他に働く場所が用意されず、農業だけでは生計がたてられず、あるいは企業の都合でリストラされ、労災補償や失業補償も受けることができず受けられても貧弱な内容で、しかも住宅保障、教育保障、医療・看護・介護・保育保障等も不備・不足する制度下で、末端の原発関連会社の日雇労働者として恐ろしくても被曝し続けて働いている人々が多数存在することがわかりました。また、がんや心臓疾患等で亡くなったり、病気とわかったとたん首切りにあって、失業し療養生活を続け、家族たちが辛苦している例が「希ではない」ことも解ってきました。

博士課程では、看護・介護労働の分析をするとともに（看護と介護は同一労働であることの検証）、介護職員が何故看護職員

と分離養成されてきたかに係る政策史を洗い出し、看護・介護を必要とする人々にとっても看護・介護職員にとっても、

「分離政策」は矛盾に満ちていることを明らかにしました。もちろん、ではどのように矛盾を解いていけるかも提示しました。これらの調査研究は、労働・生活問題研究の一環です。こうした労働・生活問題の構造を分析し、その構造に対応する対策の体系をつまびらかにする作業をコツコツ続けています。

この作業が、労働・生活問題対策における社会福祉の制度的位置と政策実践の方法を解明することに繋がります。同一労働の担い手を差別的に利用したり、命に係わる労働を、いつでも切り捨て可能な日雇労働者にしわ寄せせる社会の仕組みの中に、社会福祉の現場もあるのです。こんなことを、日々学生・院生と話し合っています。もしよかったら、折があれば、研究室にお立ち寄りください。



[社会のお約束事] 地域文化講座 ● ^{はしもと えいこ}橋本永貢子教授

今年の春、中国の日本語科の大学生に講演をする機会があった。ちょうど、黄砂やPM2.5による大気汚染に加え、鳥インフルエンザまで発生した頃ではあったが、昨年の尖閣問題以来、日中関係が不安定な今だからこそ、民間レベルでの交流が必要との思いもあり、出かけることにした。

講演の冒頭、私は意図的に「日本人らしく」挨拶をした。「私は日本語の専門家ではないので、日本語のことについてはうまく答えられないかもしれないが、どうぞお許し下さい…」日本人なのに日本語が分からないはずがないと思われたのか、やや笑いが漏れたものの、概ね自然に受け止められたようであった。実際に何人かの学生は、中国人もそのように挨拶をすると答えた。それに対し私は、自分の経験上、多くの中国人は次のように挨拶をすると思うのですがと前置きして、「中国人らしい」挨拶を中国語でやってみた。「今日はこのような機会をいただいて大変光栄です」云々。すると、確かに中国人はそんなふうに挨拶

するなあという納得の表情が見られ、会場は一齐に拍手が沸き起こった。私はその拍手が、私の〈中国人らしい〉中国語に対するものだと思っていた。

さて日本に戻って、今度はある市民講座でお話をする機会があった。ここでも私は試みに“中国的”挨拶で始めてみた。もちろん日本語で話したのだが、ごく自然に聞いてもらえたようであった。そして、実は今のは“中国的”挨拶だと話し、あらためて“日本的”挨拶を試みた。「このような場でお話するのは大変恐縮ですが、どうぞよろしく申し上げます…」と。またまた会場は、一齐に拍手が沸き起こった。やはり日本的挨拶、中国的挨拶というものがあることを再確認したわけであるが、同時に「どんな時に、何を言った時に拍手するのか」も、社会によって暗黙の了解、つまり「お約束事」となっていることも認識した。また中国での拍手は、決して私の中国語に対するものではなかったということも。

教員紹介



【日本経済の現状分析と経済理論—学生との学びの日々】

地域政策講座 ● しば たつとむ 柴田 努 助教

日本社会はいま、貧困と格差の急速な広がりという深刻な社会問題を抱えています。グローバルに展開する大企業の利益が拡大する一方で、民間企業が支払った給与総額は1997年の211兆5080億円から2011年には186兆7459億円と大幅な減少を示しています。1人当たり年間平均給与でも、1997年467万3000円から2011年409万円へと58万3000円の減少であり、年収200万円以下の給与所得者は1069万人と全体の23.4%を占めています。

さらにこの間、雇用の不安定化も進みました。非正規労働者は景気循環を通して増え続け、1995年の1001万人から2010年1756万人へと755万人増加し、雇用者に占める非正規雇用者の比率は34.4%に達しています。厚生労働省の調査によれば、パートや契約・派遣社員などの有期雇用者の74%は年収200万円以下であり（2010年調査）、有期雇用労働者の大半が極めて低い賃金で働いていることが分かります。

このような「現象」をどのように理解すればよいでしょうか。これに応えるためには、利潤と賃金の関係、資本蓄積と失業の関係という経済学の概念を基礎にして、現代日本社会の雇用形態の変容、日本企業の海外生産比率の拡大（経済のグローバル

化）、労働組合運動の日本的特徴とその課題など、1990年代後半以降進んだ、日本社会の構造的な変化を学ぶ必要があります。地域科学部では、このような観点から「日本経済の現状分析」と「経済理論」の両方を重視しながら、教育と研究を行なっています。

私は東京にいた時、非正規雇用などで働く若い労働者向けに、労働問題や社会科学の基礎などを学ぶ学習会の講師をしてきました。岐阜でも去年、同僚の教員とブラック企業をめぐる問題の学習会を企画し、多くの学生や地元の若い労働者が参加しました。

また、岐阜大学に来て感じたことは、学習系のサークルが少ない、ということです。私の学生時代には、キャンパス内に社会科学の古典を読む学習会や講演会の看板やチラシが沢山ありました。やはり大学時代に「単位」の出る講義をとって終わり、ではちょっと寂しい気がします。というわけで、昨年から経済学の古典を読む勉強会を開催しています。これには専門セミナーの枠を超えて学生が参加しています。

まだ岐阜大学に来て二年目のため、試行錯誤の繰り返しですが、今後も地域科学部に貢献できるよう、様々な取り組みを行なっていきたいと思っています。

会 員 だ よ り

第4期生

いその りょうへい
磯野 良平

お久しぶりです。中村梧郎セミナーでジャーナリズムを学び、平成16年3月期に卒業した磯野良平です。現在、思うところあって労働基準監督官をしています。

僕の学生時代から今までを振り返ると、一言で言って挫折の連続です。学生時代は先生の導きもあり、大学で学んだことを体でも実践するため、市民運動に参加することに力を入れました。遠方の公共事業による環境問題への署名を集めたり、イラク戦争の反戦デモに参加したり、岐阜のごみ問題の市民活動に加わったりと、どちらかというと体制を批判する立場からのものが多かったと思います。そのこともあってか、就職活動は上手くいかず、内定は取れませんでした。一方で、少し自分に負荷をかけてでも、大学4年生に半年間オーストラリアのグリフィス大学に交換留学したことは、大きな経験になりました。

非正規2年目に前職の専門商社から第二新卒として内定をもらい、採用日までの期間を使って南北アメリカ大陸を縦断しました。同社ではベトナム勤務と東京勤務を経験させてもらい、

退職後、現在の監督官に至ります。

これを読んでいる皆さまのほとんどは、労働環境に何等かの不満や問題を抱えていると思いますが、そうしたことについて、私の職場である監督署に駆け込む場合もあると思います。私は個人的には、監督署へ相談する前に、一度、社内外を問わず身近な労働組合の門を叩くことをお勧めします。それをすることが、労働法の本質を理解する一番の近道であり、そうするかしないかによって、行動した後の結果と課題に前向きに向き合えるかどうかの雲泥の差を生むからです。

というわけで、少し長くなりましたが、私もがんばりますので、皆さまもいろいろ頑張ってください。



第5期生

う かい たけひこ
鵜飼 武彦

1970年大阪万博開催の際、岡本太郎がモニュメントとして太陽の塔をつくりました。当時私は大阪の千里に住んでいた

ので、太陽の塔を見上げながら毎日仕事に向かっていました。岐阜に転勤になり、1988年中部未来博が開かれるということで「博覧会＝モニュメント＝岡本太郎」という私の頭の中の方程式で、人に頼まれることなく自分の判断だけで東京にいる岡本太郎さんに会いに行きました。私は大阪万博の時に全身で感じた「血沸き肉踊る、楽しい、未知の感覚」を再び体験したい！と渴望しました。

そして岐阜で開かれる中部未来博のモニュメントをつくってくださいと頼みにいったのです。太郎さんは心よく承諾してくれ、今日岐阜には岡本太郎さんの塔がある。

塔は太郎さんにアメリカ・フィラデルフィア市からアメリカ独立宣言200周年記念モニュメントの依頼があったが、貿易摩擦で商談がキャンセル状態になっていたところ、出来上がった見本をそのまま中部未来博につくるということになり、岡本太郎会心の作のひとつでもあります。頭部はヒマワリの花のように八方にアンテナを張り、目は過去から未来を見通すように貫通し、首は長く遠くを見渡し、色は黄色・青・赤・緑の4色に。手は未来に羽ばたくように翼になり、足3本が現在・未来・過去を表わしている。

高さは私が21日生まれということで21メートルにしてくださいました。

この本は、私と岡本太郎さんとの出会いから塔を建てるまでのエピソードを綴ったものです。

このことから学んだことは、岡本太郎の精神である「媚びることなく、自分に正直に、人のために」と行動すれば、いかなる困難も打破でき、目的が達成できるということです。

私が今思うことは、人生短いだからストレスを溜めずに好きなことをして人生を送ろうということです。今頑張ってる方も、今打ち込めることを一生懸命学んでください。きっと将来いい方向に向かっていくと信じて。

私は今、NPO法人あけぼの会という精神障がい者のB型就労支援の作業所、グループホームの理事長をさせていただいております。積極的に地域活動に参加し、福祉のための運営を行っています。またこれらの施設では地域交流会など、あらゆることで地域との関わりをもつことを大切に、共生しています。

これからも地域の福祉が充実するよう、社会づくりに貢献していきたいと思っております。



未来は時の流れの遠いかなたにあるものではない
いま この瞬間に ナマ身でひらくのだ
若い情熱 力強く 日々 躍動する

岡本 太郎
（「未来を拓く塔」の銘板に刻まれた「未来を拓く」より）

第6期生

やぎゅう むねのり
柳生 宗紀

地域科学研究科地域文化専攻を修了してから早4年の月日が流れました。私は、近藤真庸教授の研究室に所属し、健康教育について学びました。近藤真庸教授には、地域科学部2年生から数えて5年半もの間、お世話になりました。

私は今、JAめぐみのでお世話になり、地元である可児で働いています。仕事の内容は、可児の専業農家さんへの営農指導、また農産物販売のお手伝いなどをさせていただいています。まったく農業のことを学んだことのない私が農家さんへの指導に当たることになるとは、入った当初は人生何が起るかわからないということを実感する毎日でした。苦悩しながらも、何とか乗り切り、4年間頑張ってきましたが、まだまだ勉強の毎日です。

また、可児産農産物のPRのため、昨年から営農指導の仲間3人で「可児野菜スイーツコレクション」という取り組みを始めました。可児管内の洋菓子屋さん3店舗に可児産農産物を使った「野菜スイーツ」を作ってもらい、洋菓子屋さんの店頭や、可児農業祭などの地元のイベントで販売しています。この1年間で、完熟トマト、なす、緑茶、大豆（豆乳）、栗、さといも、しょうがなど、多くの農産物を使った「野菜スイーツ」ができました。

完成した「野菜スイーツ」はどれもおいしく、食べていただ

いた方には好評をいただいています、何度も食べに来ていただくファンの方も増えてきました。可児では少しずつではありますが、「野菜スイーツ」の認知度があがってきています。

可児は住宅街が多い所ではありますが、昔からこの地で農産物を栽培し、頑張り続けている農家さんがいらっしゃいます。その方たちを何とかPRしたいという思いでこれからもこの取り組みを継続していきたいと思っています。

みなさん可児の農家さん・洋菓子店・私たち営農指導員3人が一緒に取り組む「可児野菜スイーツコレクション」の野菜スイーツを味わいに、可児に遊びにきてください。お待ちしております。



プロジェクトの仲間と（筆者は右端）

こぼれ話③ 平成24年度 森の会同窓会を振り返って

ここ最近仕事が忙しかったため、同窓会の案内は届くものの全然行けていない、出欠の返信もろくに返していないような状態が続いていましたが、役員として企画段階から携わったこともあり、前年度の同窓会へは、久しぶりに参加しました。

同窓会の開催場所はしばらく大学構内で固定化していましたが、平成24年度同窓会については「場所を変えて、美味しい食べ物とお酒とともに、気楽に格安で盛り上がってみようよ」ということになりました。

そして、交通の便も良く、託児所も確保した上で、岐阜駅前のイタリア料理店を会場として、会費1,000円で開催することとなりました。

その結果、前年度比2倍超の40人を越える卒業生・教授・学務陣が集まりました。

女性の参加率が、非常に高い同窓会だったのですが、同期が3人程度集まれば、近況報告から始まり、学生時代の話や、その他諸々、いろんな話で盛り上げられるなあ、と実感した次第です。

また、卒業したばかりの人が、ちょっとした自己紹介を兼ねてスピーチをする機会がありました。短い時間の中で、絶妙な営業トークなんかを交えながら明るく話していたの

を見て、地域科学部の卒業生は、なかなか力があるんじゃないかと、ちょっと、おっさんの目線で見れたり、終始、楽しく参加できました。そして酔いました。

その後、同窓会が開きになり、15時ちょっと過ぎくらいの明るい時間ながらも、二次会へ行こうという流れになりました。

二次会では、役員が多かったこともあり、本日の反省もしつつ、仕事でのアドバイスなど少しアツい話もできました。

今年も駅前付近で前回の良かったところ活かしなが、さらに参加者が増えてもいいように準備を進めています。

前年同様楽しい同窓会になるかと思えます。同じ学部を卒業した者同士、気楽に話せる貴重な機会のひとつです。是非、今まで乗り気でなかった方もお気軽に出席していただき、皆で同窓会を盛り上げられればいいなと思っています。では11月、同窓会にてお会いしましょう。

森の会 幹事 伊藤 雅浩



進路状況

学部進路

2013年3月卒業生進路状況（2013年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員(18)

愛知県庁 江南市役所
安城市役所 国税庁
池田町役場 湖西市役所
大垣市役所 飛島村役場
春日井市役所 羽島市役所
岐南町役場 御嵩町役場
岐阜県警察 南知多町役場
岐阜県庁(2) 美濃加茂市役所
岐阜県市町村立小中学校事務

建設・製造業(18)

青山製作所 ツキオカフィルム製薬
イデアインターナショナル テバ製薬
オークマ トヨタホーム名古屋
キタムラ 日本耐酸塩工業
ジェイアイエヌ 樋口製作所
新興機械 松波印刷
鈴木楽器製作所 佐合木材
西濃印刷 関ヶ原石材
大和リース株式会社 日本eリモデル

情報通信・運輸業(12)

NTTデータ東海 アイエスシステムズ
粒コンピュータサービス エイチーム
コミット NHK岐阜
シーエスイー シーシーエヌ
CMC Solutions 岐阜新聞
テクノスジャパン 名古屋鉄道

金融・保険業(15)

愛知商銀 UCS
大垣共立銀行(4)
オリエントコーポレーション
岐阜信用金庫
中京銀行
東京海上日動火災保険
東濃信用金庫
西尾信用金庫
日新火災海上保険
日本生命保険
三菱東京UFJ銀行

卸・小売業(10)

アルフレッサ日建産業
イスコジャパン ギガス
サンゲツ ジーエフシー
東海キヨスク 豊通ケミプラス
日本アクセス ローソン
石黒商事

医療・福祉業(4)

医療法人岐阜勤労者医療協会 みどり病院
岐阜県国民健康保険団体連合会
岐阜県総合医療センター
社会福祉法人希望の家

不動産・賃貸業(3)

積和不動産中部 デュアルタップ
ミニネット

サービス業(8)

オンダ国際特許事務所 トーカイ
樫詰庄二行政書士事務所
平安閣 テイコク
サンエイ
ワダエンジニアリング
デイリーインフォメーション中部

教育・学習支援業(5)

岐阜大学 名古屋大学
明日成 さなる
HOMESエデュケーション

複合サービス業(4)

岐阜県酪農農業協同組合連合会
JAあいち経済連
JA岐阜中央会 JAとびあ浜松

進学(12)

あいち造形デザイン専門学校
エルフルト大学(ドイツ)
金沢大学大学院人間社会環境研究科
岐阜大学大学院教育学研究科
岐阜大学大学院地域科学研究科(8)

農業・林業(1)

わかば農園

電気・ガス・水道業(1)

東邦液化ガス

娯楽業・その他(1)

東山遊園

研究科進路

2012年9月修了および2013年3月修了生進路状況（2013年5月1日現在；カッコ内は人数で1名の場合は省略）

公務員(3)

名古屋市学校事務
小牧市 稲沢市

建設・製造業(2)

ジャント
デルファイ・オートモーティブ・システムズ

サービス業(2)

市川会計
昌平貿易

複合サービス業(3)

JAあいち三河 JAなごや
住友商事マシネックス

医療・福祉・教育業(1)

社会福祉法人サンライフ

進学(1)

岐阜大学大学院工学研究科

ゼミ通信-③

土岐
セミナー

第3期生

あらせ しゅうぞう
荒瀬 修三

地域科学部を卒業して10年が経つのですが、土岐先生とは、立ち寄った居酒屋で偶然お目に掛かったり、私の娘の発達相談に乗っていただいたりと、ご縁が続いております。(結婚したことを先生に報告せず、そのことが先生の耳に入った後も私がシラを切り通した際には破門状態となっていました。)

土岐セミナーは、「子どもの障害と発達」をテーマとしています。私は、卒業研究で視覚と聴覚の両方に障害を持つ子どものケーススタディをさせていただきましたが、就職先は障害者と直接関わる仕事ではありませんでした。おそらく、ゼミの卒業生のほとんどがそうだと思います。

しかしながら、私にとって、この4月が大きな転機となりました。3月まで務めた生協（コープぎふ）を退職し、障害者通所施設で生活支援員として働いています。その転職にあたって先生にアドバイスをいただきました。

そして、月に一度研究室で開かれる「発達学習会」にも招いてくださり、あらためて大学で学べる機会ができました。この学習会では、元教員、ボランティア、施設職員、学生、いろいろな立場の方が集います。テキストを輪読したり、先生から質問を受けたりと、やはり緊張感はあるものの、学生に戻れたようで少し懐かしい感じもします。

ゼミ通信の欄ですが、私の近況報告のようになってしまいました。今度は、ゼミの卒業生や現役生が一堂に会して…。そのような報告ができればと思います。



発達学習会の様子

平成24年度会計報告

自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日

(単位: 円)

●収入の部

項 目	決算額
会 費 (10,000円×82名)	820,000
懇親会費 (1,000円×40名、500円×1)	40,500
利 息	3,242
当 期 収 入 合 計	863,742
前 年 度 繰 越 金	1,676,383
収 入 合 計	2,540,125

●支出の部

項 目	決算額
事業費	
・ 会報等印刷費	322,980
・ 会報等郵送費	112,150
・ 卒業・修了祝会祝い金	100,000
・ 大学フェア賛助金	48,500
事務費	
・ 人件費	342,362
・ 事務用品費	39,331
・ 通信費	2,190
会議費	
・ 諸会費	0
・ 役員会雑費	28,864
・ 交通費	76,940
総会費	
・ 講師謝礼	0
・ 懇親会経費	179,700
予備費	0
当 期 支 出 合 計	1,253,017
当 期 予 備 費 合 計	0
支 出 合 計	1,253,017

項 目	収入の部	支出の部	差引計
次年度繰越金	2,540,125	1,253,017	1,287,108

●資産保管状況

項 目	現在高
現 金	0
普通預金	
十六銀行	1,287,108
郵便局	0
定期預金	
十六銀行	8,000,000
合 計	9,287,108

帳簿及び証拠書類を監査した結果、上記のとおり相違ありません。

平成25年5月22日

監 査

伊藤 健人



監 査

祖父江 利佳



森の会の皆さま、いかがお過ごしでいらっしゃいますか。

2001年に発足した森の会は、3月に2012年度の大学13期で卒業、大学院11期で修了の方たちを新たにお迎えし、正会員数1,598人の同窓会となりました。

初期のご卒業の皆さんは、10年選手として職場を支えていらっしゃることでしょう。同窓生のご活躍の様子を見聞きするたびに、私などは母親のような心境で嬉しくなります。

森の会の活動の中心は、年に1回の総会・懇親会です。今年も、岐阜駅前に会場を設定いたしました。学際的な地域科学部らしく「異業種交流会」のような楽しさもありますので、ぜひ、多くの会員の皆さまにご出席いただきますように。

岐阜大学のホームページには森の会の情報も掲載されております。また、facebookにも「岐阜大学地域科学部同窓会森の会」のウォールを設けておりますので、情報交換の場としてご活用ください。

皆さまがこれからもお健やかに、素敵に活躍されることを祈りつつ、秋の総会・懇親会での再会を楽しみにいたしております。

森の会 会長 あさい あきこ 浅井 彰子

平成25年度 森の会役員

会 長／浅井 彰子①

副会長／浅野 善信① 石黒 好美① 都築 尚子①

幹事長／中山 智隆③

幹 事／伊藤 雅浩① 加地 和歌子① 眞鍋 陽子① 笠原 正博⑩

平野 純里①① 藤井 敬子①① 野村惇貴⑫

会 計／荒瀬 修三③ 伊藤 悠貴④

監 査／祖父江 利佳①伊藤 健人③

(氏名の後の○の数字は、期生を表します ①…第1期生)

森の会 会員数 1,598名

(平成25年4月1日現在)

■事務局より

「森の会の皆さま」

(前) 事務局員 めがた きょうこ 目加田 恭子



私は、平成21年6月から約4年間、森の会事務局でお世話になりました。今年4月からは後任の羽賀さんに引き継ぎまして、現在は、工学部の研究室で事務員をしています。

振り返ると、森の会事務局に配属されてまず私がとりかかったことは、同窓会名簿、会費の収支簿などの作成や更新業務でした。事務局は一人なので、わからないことがあると不安になることもありましたが、浅井会長をはじめ役員の皆さんに相談したり、学務係に応援してもらいました。年4回の役員会、会報の発行、総会・懇親会の開催など、年間を通じて充実した日々を過ごしました。

私は今まで4回の総会・懇親会に携わりましたが、参加者が少なく正直寂しい時もありました。その後、皆さんが参加しやすい同窓会を目指して、役員会で意見を出し合い、努力を積み重ねた結果、昨年は参加者が大勢集まりました。この時、森

の会とは、卒業生、先生方、事務職員などの地域科学部に関わる人々で育てる会であることを実感しました。

最後に、私は、今後も事務局OGとして森の会とお付き合いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

「どうぞよろしくお願いいたします」

(現) 事務局員 はが しゅうこ 羽賀 修子



昭和58年3月に、岐阜大学教育学部を卒業しました。長良校舎最後の卒業生です。歳がばれてしまいますね。当時、工学部と農学部(現応用生物科学部)は既に柳戸に移転していましたので、同期の仲間と憧れの柳戸校舎に遊びに来たことがありますが、植樹したばかりで私の背丈ほどの木々ばかりでしたが、今では森のように生い茂り素敵な公園のようです。

縁あって地域科学部同窓会「森の会」事務局でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

森の会では、みなさまからの近況報告、ご意見・ご感想を募集しております。
メールまたは郵送にて下記宛先までお送りください。

連絡先

森の会(岐阜大学地域科学部同窓会)

〒501-1193

岐阜市柳戸1番1 岐阜大学地域科学部内

TEL:058-293-3025

FAX:058-293-3008

E-mail:mori2001@gifu-u.ac.jp

事務局業務日(月・水・金 9:00~15:00)



森の会アドレスに
簡単にアクセス
できます

